



泉っ子だより

みがきあい
じぶんいろに
ひかり、かがやく 泉っ子



令和2年 7月 27日 19号

個人懇談会への出席 ありがとうございます

7月21日(火)・22日(水)の個人懇談会に出席いただきありがとうございました。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により臨時休校措置がとられ、家庭訪問も中止せざるを得ない状況の中で保護者のみなさまとも会う機会がなく、7月も後半にさしかかりました。学校が再開して1ヶ月半経過しましたが、新型コロナウイルス再感染の関係から個人懇談会の開催に向けていろいろなご意見もありました。しかし、学校としてこれ以上は保護者の方と顔を合わせないままに進めていくわけにはいかないと判断し、この時期に実施することとしました。マスクを着用しての懇談で息苦しいところもあったかと思いますが、協力ありがとうございました。

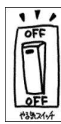


ほとんどの保護者の方に参加いただきました。多くの保護者の方が「担任の先生と話をしたかった」「学校でのようすを早く聞きたかった。」という意見をいただき、担任の先生に早く会いたかったという思いを感じました。

今回のお話しを基に家庭と学校が同じ方向で、子どもたちとの関わりや指導をしていきたいと思っています。また、何かお気づきの点などありましたら、担任へご連絡ください。子どもたちの健全な育成をめざして、ともに頑張っていきましょう。

鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性

子どもたちは、苦しいことに遭遇するとあきらめてしまうことが多いです。そこで、福岡県では、これからの時代をたくましく生き抜く人材(人材)を育てていくために、家庭や地域、学校が『鍛えて、ほめる』ことを日常生活のいろいろな場面で意識し、実践していくことで、子どもたちの可能性を伸ばすことができるという取り組みを推進しています。



『鍛える』とは、子どもたちに「自ら考えて課題を決め、困難を乗り越えること」を経験させるということです。日常生活のいろいろな場面で、「ちょっと難しいかな?」「できるかな?」と思えるような「目標」を、大人が決めるのではなく子どもと一緒に考えて設定し、そのことに挑戦させてみることです。鍛錬や精神修養的なことをいっているわけではありません。



『ほめる』とは、小さなことでも積極的に子どもをほめて育てることです。しかし、特に「困難な場面を乗り越えたとき」「自分で決めた目標を達成したとき」に頑張った姿や頑張ったプロセスをほめられると子どもはうれしさから「次も頑張ろう」「別の事にも挑戦しよう」という気持ちが高まってきます。こういう体験を繰り返すことで自尊感情を育て、子どもの可能性を伸ばそうという取り組みです。ご家庭でも取り組んでみませんか。

熱中症にならないようにしましょう！

もうすぐ梅雨も明け、ジリジリ暑い本格的な夏がやってきます。子どもは、熱放散能力、汗腺をはじめとする体温調整能力が発達していないために、熱を体ためこむことになり、熱中症のリスクが大人より高いようです。また特に低学年は、まだ身長が低いために、地面からの熱を受けやすい状況にあります。地上から100cmと160cmの気温の差は最大3℃にもなるそうです。身体的にも大人が考えている以上に子どもは熱中症のリスクがとても高いことがわかります。



さて、今年はマスクの着用で例年よりも熱中症になりやすいと言われています。十分な睡眠、偏りのない食事、水分や塩分の補給、帽子や衣服の工夫、それに定期的に涼しいところで休憩すること等がとても大切です。しっかり守って、しっかり予防しましょう。



交通事故にあわないようにしましょう！

統計的に見て7月中旬から子どもの交通事故が急激に増加しています。新しい学年になり、新しい友だちができることで行動範囲が広がり、今までとは違う道を通ったりすることも原因の一つになっているようです。また、遊びに夢中になり、ボールを追いかけて道路に飛び出したりすることもあります。さらには、暑いと体もコントロールがきかなくなり、注意力や危険予測・危険回避という判断も鈍ってくるようです。



そして最近よく下校時の子どもたちのようすについて、電話がかかってきます。「話に夢中になり車を見ず、巻き込んだり、ぶつかりそうになった。」「自動車と並行して走り、巻き込んだり、つまずいたら危ない。」「4~5人が横1列になり、車道まではみだして歩いている。」「縁石や白線の上を歩いて危ない。」等の危険な行動をしている事を連絡してくれました。

もし、事故に遭ったら…。命を守りたいという思いから学校に連絡をしてくれています。交通ルールをしっかり守りましょう。

水難事故にあわないようにしましょう！

夏になると多くなるのが、やはり水難事故です。最近海で多い事故が離岸流による事故です。いつのまにか沖に流されてしまいます。海では管理された安全な海で泳ぐことが大切です。



また、中学生以下の子どもをみると、一番多いのは河川での事故となっています。中学生以下の水難事故の53%は河川で26%は海で起きています。特に河川や海が近い行橋市にとっては、とても気になる数字です。水難事故というのは、事故にあつて命を失う可能性がとても高いといわれています。注意しても、しすぎることはありません。

